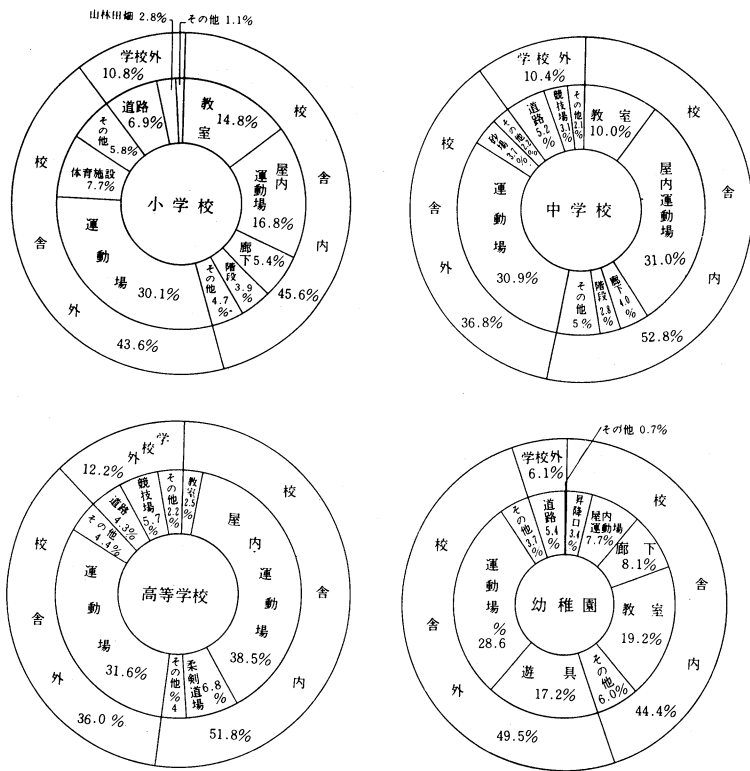


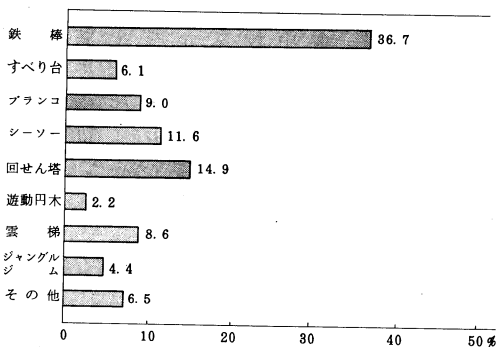
(図17) 災害はどんな場所で起こっているか (昭和50年度福島県)



また、小学校で高率を占める教室や体育遊戯施設での災害は中学校、高等学校へ進むに従って低下し、屋内運動場での災害が上昇する。(図17)

なお、小学校の災害発生場所としての体育遊戯施設にはどのようなものがあるかをみると、図18のようになっている。

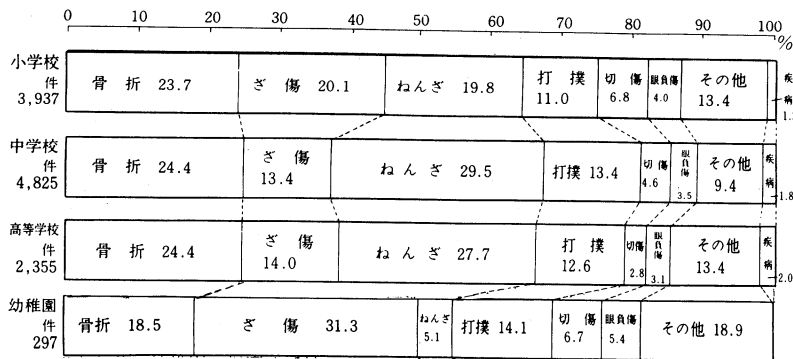
(図18) 災害はどんな体育遊戯施設で起きているか (小学校) (昭和50年度福島県)



学校、高等学校がともに二四・四%となっていることは注目すべきこととしてよいであろう。

すなわち、骨格は、身体を構成するもっとも強い組織であるにもかかわらず、学校の管理下における事故によって、骨折にいたるものが二三%以上もあるということは、見過ごし得ないところである。骨折がなぜ多いか、その原因については、栄養上の問題、身体の鍛練不足その他いろいろと推測されているが、まだ科学的なデータを裏づけとした原因は把握されていない。専門的な立場からの原因追究と対策の樹立が望まれるところである。

(図19) どんな負傷が多いか (昭和50年度福島県)



また、負傷の発生した身体の部位の状況は表37のとおりである。小・中学校と高等学校においては、負傷の五四%から七三%が上肢あるいは下肢の、いわゆる四肢に発生しているのに対し